

生活暮らし目線での分野

	移動する(観光)	食べる・買う	稼ぐ・商う	はたらく	育つ・育てる	学ぶ・遊ぶ・楽しむ	健康に暮らす	身を守る・支え合う	つながる・交わる・集う
暮らしの変化	市内へのバスや電車などの公共交通機関を使った外出は控えていた。(必要な時は車で外出)  右京区は住宅地が多いので、これまでは風間は都市部に出ている人が家にいるため近所に人が増えた。平日の風間なんて人を見なかった。(例えば三条通など)	お弁当の提供を通じて、これまで縁がなかった飲食店とのつながりができるなど、外部のネットワークも広がった。  敷居の高かった飲食店がテイクアウトをはじめたことで、その店の味を味わう機会が広がった。  ウーバーイーツを使うことが増えた。	小さなホールを運営しているが、ほとんど何もできなくなった。  ライブハウスは固定費などで大変だろうが、幸い高額な家賃などの心配がなく場の維持はできている。  オーケストラのコンサートができず、経済的に大打撃。  アルバイトがなくなった。	大阪へ約1時間の通勤だったが、テレワーク・在宅勤務になった。  テレワークが続くと、光熱費や通信費など、会社が負担していたものが家庭にのしかかる。  ズーム会議が増えた。切れ目なくスケジュールリングされることになり、以前よりしんどい面もある。  会社の入社試験の面接は、オンラインとオフラインを選択できるようにしている。(会社)  就活はオンライン面接でやっている。(学生)	小学校の休校で学童保育の負担が増え、スタッフの体力や気力の維持が大変。  対面での学習支援ができなくなったのでオンラインで対応しなければならなくなった。でも、少人数制になることで、発達に気になる子のケアなど丁寧な対応ができた。  学習塾に通う子供たちは、自棄中はみんな「退屈だ」と言っていた。相当ストレスだったようだ。  世間で言われているほど子どもにとってネガティブな影響ばかりではない気がする。こどもたちの周りをゆっくり時間が流れるよさもあった。  高校生の子どもは、学校に行けなくなると嫌がってたけど、この暮らしに慣れてきたのか、始まるとなると行きたくなくなってるみたい。	学生の中には、京都から地元へ帰省できない人もいれば、帰省したまま京都に戻れない人も、それぞれ多くいる。京都に戻れなくても、借りている家の家賃は払わなければならない。  「その場にいないといけない時間」が減ったので、授業を受けるのが楽になった。(学生)  大学でオンライン授業を始めて、先生も学生も慣れない環境の中、はじめは本当に大変だった。(教員)	近隣でも、走っている人、歩いている人が増えた。  テレワークが始まってから、ウォーキングをするようになった。  病院に行かなくなった。  クリニックに来る患者さんがいなくなった。  体調をコントロールできる人と、不健康になってる人の二極化が進んでいる。	自治会活動では会議も書面開催せねばならず、あらゆる事業が実施できない。  自治会でマスクを配る取組をした。できる範囲でできることをやっていくことは大切。	zoomは仕事でしか使っていなかったが、プライベートでも使うようになった。  オンラインで会話することが多くなるなど、人との接し方が変わった。  人と話をしたり、面と向かい合うという、「当たり前」がなくなった。  大学の授業は、前期は全てオンライン化。人と関わるのがなくなった。  人と会えないというが、大事な人にはそれなりにコンタクトは取っていたので、それほど困るという事はなかった。  家にいる時間が長いので、家族とのコミュニケーションが増えた。  こんなときだからこそ、家族やパートナーがほしい、人とつながりたいという人が増えた。  オンラインのおかげで疎遠になっている孫にも会える。
心境の変化		生きていくためにはまず食べるのが基本。街中とちがって、種をまけばちょっと野菜が作れるような住環境があることが右京の強みではないかと思った。  テイクアウトなど、近所での生活の比重が以前より高まり、地元のことを意識するようになった。	(ライブハウスなど)コストの高くつく業態について考え直すいい機会になったのではないかと。演奏家は裸一貫自分の身が資本、低リスクハイリターンで売れるのではないかと思うようになった。少人数の客でもそれなりの入場料が取れればやっていける、生き延びられるのではないかと考えるようになった。	在宅でもできることもあるのだ、と改めて気づいた。これからテレワークが定着するのではないかと思う。職住近接の働き方。  テレワークが定着してくると、身近なところで作業や仕事ができるスペース(コワーキングスペースやサテライトオフィス)へのニーズが高まってくるのではないかと。テレワークに対応した保育サービスがあればありがたい。  今まではとにかく家事も仕事も一生懸命!(=豊かさ)だったが、丁寧に食事や掃除をして、家族で囲みするようになり、豊かさをどう考えるようになった。	子どもたちは、今の環境の中で大きくなっていくので、オンラインの良さ、リアルな良さをちゃんと教え、体験しながら育てていく必要がある。	やっぱり対面でないと難しい授業もある一方で、オンラインでも対応できそうな授業もあることが分かってきた。(教員)  オンライン授業だと、基本は書類を見て課題をするという形式。学びの機会というよりも、作業化してしまっているかも。学びも対面のコミュニケーションがなければ難しいと思う。(学生)  コワーキングスペースなどがあれば、自宅にネット環境が整っていない学生も重宝すると思う。(学生)  これまでは、勉強以外のスマホやゲームの時間が多かったが、自分の時間を大切に、勉強する時間を確保する動機付けとなった。(学生)	健康管理の大切さを痛感している。	高齢化した自治会でも、オンラインであれば出て行った若者にも参加してもらえるかもしれない。  オンラインであれば安否確認もできる。毎日決まった時間に来られる人だけでも集まるとか、公民館的のような使い方もできるのではないかと。  家族の大切さを実感している。	
全般にわたること	<p>&lt;オンラインに触れたことによる発見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインでいることができるということが、やらざるを得なくなって初めて分かった。</li> <li>細かい打合せは会う必要があるが、一人ひとりが丁寧に話す場はオンラインでもよい。実際に会わないと分からないことがある一方で、目配りの仕方など、オンラインだからこそ分かることがある。</li> </ul> <p>&lt;でもやっぱりリアルも大事よね&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何か大事なことを決める・話し合うときは、やっぱり会って話さないと、と感じる。相手のしぐさや表情、温度感などは対面でこそ肌で感じられるもの。オンラインでは代わりになり得ないもの。</li> <li>やっぱり人と会うと刺激をもらえる。そこにオンラインではできない壁があるのではないかと。「人との関わり」はどんな状況になっても大切なんだなと思った。</li> <li>オンラインでのコミュニケーションもよいとは思いますが、やはり限界はあると感じている。</li> </ul> <p>&lt;オンライン対応の二極化が進んだ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飲食業をはじめ、そこに人に来てもらわないといけない仕事は大きな影響があったが、そうでない仕事(=オンラインでも代替可能)は、そこまで影響ないのでは。二極化が大きく進んだ気がする。</li> <li>オンラインと無縁な人(環境がない個人や、オフラインでないとできない仕事(物流、ソーシャルワーカーなど))のことも考えていかないといけない。</li> <li>ネット環境によっては、コミュニケーション状況に格差が生じる人も出てくる。</li> <li>情報を手に入れられる人とそうでない人で、格差を感じる。</li> <li>オンラインは、エリートの人にもつむる限られた話題で盛り上がっている感じ。「これからはオンラインだ!」みたいな。</li> <li>この状況を楽しんでいる人とそうでない人がいる。</li> <li>この状況だからこそ、縦の世代の交流も大事になってくる。若い人は若い人だけ、お年寄りはお年寄りだけ、となってくると、世の中の流れに取り残されてしまう人が出てきて、もっと差が広がっていく。</li> </ul> <p>&lt;自分自身がしっかりと見極めて、選択・判断することが大切&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大事なことを形骸化していることとの差をはっきりと見極めることが必要である。</li> <li>余分なことを見直すいい機会。動き続けてきたものを立ち止まってみている。変化へのきっかけを提供された感じ。</li> <li>オンラインは、プラスにもマイナスにも働くので、きっちりと見極めていきたい。</li> <li>オンラインツールが使えることを知って、私たちの暮らしの中での選択肢は増えたけれど、それをどう使うかはちゃんと判断していかなければいけない。</li> <li>「なぜオンラインか?」の理念の共有が必要。オンラインは目的ではなく、手段。</li> <li>顔を合わせてできていたこと、親しみ・つながり・帰属意識・出会いなど、リアルの意味も考えておかなければいけない。</li> <li>オンラインとリアルの両方をうまく組み合わせることができればよいと思う。</li> </ul> <p>&lt;コロナで価値観の違いや多様性が見えてきた&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰が何を考え、何によって立っているのかがよく見えるようになった。コロナに対処する考え方、政治的なスタンスなど、違い、多様性がよく分かった。</li> <li>人それぞれの思いの違いを実感した。</li> </ul> <p>&lt;コロナでわたしたちのこれからの暮らし方はどうなる?どうしたい?&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「これからは集約から分散へ」というコメントもあったが、分散することで、これまで出来ていた情報集約やサービスが逆に低下することもある。要はしっかりと見極めて上手く使い分けることが大事なのかなと思う。</li> <li>コロナがあろうとなかろうと、現実の現場や課題は変わっていない。大事なことが見過ごされるのが心配。</li> <li>コロナでいろんなものが見えづらくなっているからこそ、見えないところに想像力を膨らませながら生活していくことが必要だなと思う。</li> <li>コロナの影響による悪いことはみんなが気付いたことだから、よいこと探しに目を向けたい。</li> </ul>								